

## 「ミスタープロ野球」長嶋茂雄さん逝去

先月3日、プロ野球・読売巨人軍の選手、そして監督として輝かしい実績を残し国民的人気を博した長嶋茂雄さんがお亡くなりになりました。長嶋さんは千葉県出身で、佐倉一高から立教大学に進み、巨人に入団。天覧試合でのサヨナラホームランなど大舞台での勝負強いバッティングと華麗な守備で多くのファンを魅了し、プロ野球を国民的人気スポーツに押し上げたその活躍から「ミスタープロ野球」の愛称で親しまれました。私が生まれた昭和49年に現役を引退し、セレモニードで残した「私は今日引退をいたしますが、我が巨人軍は永久に不滅です」という言葉は、当時のファンのみならず現役時代を知らない我々を含め、今も多くの人の記憶に残るフレーズとなりました。その偉大な功績を偲ぶとともに、長嶋さんの情熱や意志は、球界のみならずスポーツ界全体に引き継がれるに違いないと思います。あらためて心からご冥福をお祈り申し上げます。

さて、この原稿の執筆中も先の見通しが立たない米の需給問題は「令和の米騒動」として広く注目を集めています。米は日本の食文化において必要不可欠な食材であり、その安定供給は食料安全保障上においても極めて重要な



ものであります。近年の米不足は単なる一過性の問題ではなく、さまざまな事象による供給の不安定化と需要構造の変化、それによる長期的かつ複雑な課題が一気に顕在化したことで引き起こされたと感じています。さらに統計と現場の実感にも隔たりがあるとの声もあります。まずはその根本原因の整理を行い、生産者のコストに見合った需給のバランスを含め、持続可能な農業への転換や政策をどのようなものにしていくのが最善か、その議論をしっかりと行い、今後の農業政策を時代に合ったものに転換するよい機会ではないかと感じています。主要な産業が農業である本市においてもこの問題は身につまされる思いもあります。今後とも国の農業政策が安心できるものとなるよう注視してまいりたいと思います。

梅雨が明けて本格的な夏が始まる7月は、家族や友人と楽しい時間を過ごすよい時期でもあります。さあ今から準備を整え、夏の思い出をつくり出かけましょう。

姫路市長 宮内康幸

## 姫路探訪

## 百庚申の改修

大寺を歩く

現在、市内で「庚申講」を行っている集落は見られないようですが、地域に残る多くの「庚申塔」がかつて盛んだったことを伝えています。

「百庚申」とは、1カ所に多数の庚申塔を造立したもので「祈願のための供養は数が多いほど有効との信仰に基づく」とする研究者の見解があり、県内では東総から利根川、江戸川流域に分布すると報告されています。

市内の百庚申は筆者のこれまでの調査で4カ所が確認されています。このうち県道74号沿いの旭市との境界近く



大寺の百庚申

の大寺地区共同墓地付近にあるものは、2014(平成26)年に同地区の人たちにより保存改修工事が行われ「庚申塚保存改修落成之碑」が建てられています。中央に「青面金剛像」を浮彫りにした庚申塔、左右に3基ずつ「青面金剛」や「庚申」と刻まれた文字塔が並びます。中央の塔は1740(元文5)年4月に大寺村全体で造立しました。左右の塔は庚申年にあたる1800(寛政12)年と1860(万延元)年にまつられ、おそらく少人数の講中が建てたのでしょう。それらを囲むように「庚申」と刻まれた丸く細長い枕状の自然石(飯岡石)が隙間なく並べられ、百庚申となっています。

江戸時代に大寺村で造立された庚申塔は龍尾寺、長福寺、熊野神社境内でも見られ、「寺谷講中」「四右衛門坂講中」と刻まれているので集落ごとに講中が存在したのでしょう。

このほか「大浦村惣講中」1737(元文2)年、「長岡村中」1740(元文5)年の百庚申も大寺村同様に村境近くの道路沿いに建てられており、道祖神の役割を果たしたのかも知れません。

市内に残る庚申塔は、道路改修などで移転や損傷したものはほとんどみられませんが、大寺区20数名による「百庚申の改修」で保存の大切さを再認識することができました。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班 ☎73・0080

# 文芸コーナー

## 力作募集中

宛先：匝瑳市秘書課広報広聴班  
〒289-2198 匝瑳市八日市場八793番地2  
☎73・0080 FAX72・1114

## 短歌

依知川 雅一 推薦

五月雨の過ぎたる午後の村里を

包みこみたる鶯の声

成田山境内に響く太鼓の音

若者達の演舞に魅了

たけのこを届けしわれに駆けよりて

よろこびくれし弟の今亡く

花を愛で歌詠む友との別れには

新たに進む意気込みのあり

真白なる椿に魅せられ佇めり

その美しさこころ洗われ

立夏入り路の群生朝採りの

友のもてなし紅茶いただく

亡き父の人柄偲ぶ本棚に

漢字辞典が八冊並ぶ

石田 健治 推薦

藤の花竹やぶの尾根色づけて

山の如くにりよう線描く

コンクリートの割れ目に伸びし杉菜引く

ぞうり虫らの即座に逃げる

伊橋 良子

伊橋 裕子

## 俳句

椿 和枝 推薦

風薫る森のチャペルのブーケトス

翻り田の面掠めて夏燕

蒼空へ捧ぐる花や泰山木

手を止めて老鶯を聴く山の畑

足腰のままならぬ朝梅雨に入る

麦秋や昔ふるさと二毛作

葦原に夫呼ぶ声の行行子

石田 健治 推薦

木漏れ日に導かれ往く熊野古道

鮎釣を眺めて渡る橋の上

## 川柳

勝又 康之 推薦

曲がった腰歩き続けた証でしよ

手に傘を人生行路一歩づつ

目標は毎日歩く年の数

畳でもつまづいている八十路すぎ

散歩道色鮮やかな花菖蒲

勇ましく歩いてみたがすぐばてる

田園の風にはめられた一歩

石田 健治 推薦

Gゴルフ一壁越えて優勝だ

コメはある随意契約やっただけ

石橋 春歩

佐藤 三久

鎌形 正恵

實川 まき子

伊藤 繁子

鶴澤 澄子

渡部 すい子

土屋 秀雄

江波戸 京子

須貝 玉枝

熱田 和

川口 賢一

岩井 やす

鈴木 志子

山崎 智恵子

椎名 晴江

那須 恒雄

佐々木 之子

佐々木 之子

佐々木 之子

## 地域おこし協力隊通信

第4回



〳 今月の担当は北條将徳隊員／1993年生まれ。東京都出身。大学卒業後、企業で海外営業企画やマーケティング業務を経験。匝瑳市の自然に魅力を感じ、協力隊員となる。現在、匝瑳市の魅力発信と地域活性化のため活動中。



## ともに描こう そうさのミライ

「匝瑳市の未来を“市民目線”で考え、動く会議」として、6月15日に市民会議『そうさミライカイギ』を開催しました。昨年から続けてきた集まりも、早くも4回目。地元育ちの人から移住者まで多くの人が集まり、等身大の感覚で街の好きな所や課題を話し合ったり、街の理想像を「仮想未来予想絵巻」に描いたりしてきました。

自分の街は、自分で創るもの。その考えのもと、市民一人ひとりができ

ることを持ち寄った上で、まとまって活動するためには、受け皿が必要です。今活動しないといけないのではという声を受け、まちづくりを担う法人を立ち上げることにしました。

これまで、協力隊として情報発信やブックカフェの立ち上げなどをしてきました。今後は、まちづくりに思いのある人たちがよって立てる旗印を掲げ、横のつながりをつくることも、役割の一つと考えています。イベント開催や



「仮想未来予想絵巻」の一部

ご当地グッズ製作、空き家対策など、さまざまな活動を予定しています。多くの人の参加をお待ちしています。